

平成24年1月15日

青少年育成羽後町民会議広報
事務局：羽後町役場・生活環境課
☎62-2111 (内線133)

青少年らご

伸びよう

育てよう

羽後の青少年

「伝える力」を育てる

青少年育成羽後町民会議

会長 横井 正明

次世代を担う青少年が健やかに成長される様にとの願いから結成されました羽後町民会議も、会員皆様のご努力とご協力により各種活動が計画通り実施され、青少年育成活動が展開できました事を心より感謝申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、昨年は自宅と東京を往復することが多くありました。家を留守にすると新聞がどうしても溜まってしまいます。止むを得ず新聞の購読を一時中止しました。しかし、どうも生活の一部になっている新聞を手にしたと何か一日物足りない気分になります。幸い、東京に居る時はアパートから図書館が近かった事もあり、用事のない時は図書館を利用して新聞を読んでおりました。そこで気づいたことですが、まず、新聞コーナーに立ち寄るのは我々のような中高年層がほとんどで減多に若者層は立ち寄ることがありません。若者層が利用するのはパソコンコーナーか、空いているデスクです。多分、受験勉強か資格試験の準備をしているのだと思います。

これと似たような事を内館牧子さんが秋田魁新聞に掲載しておりました。最近、内館牧子さんは大学三、四年生二〇

人と話す機会があったそうです。内館さんが「今朝、新聞を読んできた人、いる」二〇人中二人だったそうです。次に「新聞をとっている人？」と聞いた所、先手を挙げた二人に一人を加えて二〇人中三人だったそうです。その三人の答えは「自宅通学で、家が取っているから」との消極的な理由からでした。内館さんは「情報をネットで読むのと新聞の活字で読むのは違う」ということを期待したのですが、単なる自宅通学か否かの違いだけだったようです。

新聞離れ、広い意味で言う活字離れはどの年代でも進んでいます。特に若者層が多いように思います。その若者層もやがて中高年層になっても今の生活スタイルは変わらないと思います。更に電子図書が本格的に普及しますと活字離れは益々、進むことが予想されます。

しかし、本や新聞にはネットにはない言葉やさまざまな表現の仕方が詰まっています。話すことは勿論、考えることもその言葉や表現を参考にするのですから多面的に物を見たり、考えをまとめたたりするにはやはり本や新聞にかなわないのではないかと思います。

子どもが思春期に入ると親子の間でもだんだん会話が少なくなります。無駄話も交わさなくなり、必然最小限な事しか話さなくなります。家庭は憩いの場です。から議論ばかりしていますと疲れますが、それでも、単に実用的なことや無駄話だ

けでなく知的な会話もたまには交わすようにしたいものです。新聞やテレビ等で話題になっていることを「NHK週間子どもニュース」を担当していた池上彰さんのように上手に解説できなくても、親が簡単に説明してあげることでも話も弾みますし、自分の考えや思いをきちんと表現できる力も着いてくると思います。ネットと新聞や本はそれぞれもっているよさを活かして上手に利用したいものです。



青少年育成羽後町民大会

子どもの作文から学ぶ

私たちは、子どもたちから毎年作文を募集してきています。そして、その中から優秀な作品は、羽後町民大会において、「青少年の主張」として町民の皆さんに発表してきました。その時の審査会で、子どもたちの作文を読むたびに子どもたちからたくさんのご意見をいただくことが多かったです。私は、一、二年生の子どもの作品を読む機会が多いので、今回は、昨年と今年の作品を二編に取り上げて、皆さんにも「今一度子ども心に触れてもらいたい」と思います。何かしら今までの子どもを育て方に不足してきたものが見えてくるのではと思っていますのが。

すばらしいお父さんたちに拍手!!

昨年度 小学校低学年の部 特選

さんぽにいったこと

田代小学校 一年 すずき かりん

まいにち、とうさんとゆうがた、たんほのいねをみにいきます。いくとちゆうで、くさやはなをみつたり、こんちゆうをさがしたりしな

がらあるきます。とうさんが、たんほをみているあいだに、おたまじゃくしやカエル、とんぼをとって、かあさんにおはなといっしょにおみやげにします。すると、かあさんは、びっくりしなごらよこんでくれます。

とうさんは、あるきながらおはなしをしてくれます。このまえは、おこめのことをはなしてくれました。



「きいろくなつたおこめは、もうすぐたべられるよ。すずめはおこめがすきだから、ついでたべている。たべたところは、しろくなっているんだよ。」

おこめにさわってみたら、きいろいおこめはかたいけど、しろいおこめはべたんとしていました。すずめがたべたとわかりました。たんほには、どじょうがいます。

「みずがいつばいながれているところにはいないけど、あんまりうごかないところには、どじょうがいる。」

とうさんは、どじょうをつかまえました。でも、つるんとにげました。わたしもたんほに、てをつつこんでとろうとしました。なにかによろによるものが、てにさわったけれどもにげました。たんほのなかは、あたたかかったです。とうさんが、たんほのはなをみて、

「これなんだとおもう。」
と、ききました。しろくてちいさいはなでした。わたしは、わかりませんでした。

「これはいねのはなだよ。」
と、いきました。わたしは、いねのはなをはじめてみました。

とうさんは、いつもしつもんして、それからおしえてくれます。わからないことをおしえてくれます。わたしは、とうさんとのおさんぽがだいすきです。

今年度 小学校低学年の部 特選

ここに家ぞく

元西小学校 二年 細谷 夏な

わたしの家は、四人家ぞくです。おとうさん、おかあさん、おとうととわたしです。おじいちゃんおばあちゃんがいる家とくらべるとすくないけど、いつもわらわらしてたのしいです。みんな夕ごはんをたべて、みんなでテレビを見て、ときどきはみんなでおふろに入ります。

わたしが一ばんたのしいのは、おふろの時間です。おとうさんが、

「ふろさるぞ。」
と言うと、わたしとおとうとは、

「はい。」

と言ってすぐに行きます。それは、いつもおふろでゲームをするからです。おとうさんは、大きいからおふろの三分の二をつかいます。のこりの三分の一にわたしとおとうとがぎゅうぎゅうに入ります。四人のときは、一人が体をあらって、こうたいして入ります。



す。そして、おふろの中に入っている三人で、「たこたこ」をしたり、「じゃんけん」をしたり、「デコピン大会」をしたりします。

デコピン大会は、おゆがびちゃびちゃはねて大へんです。ぬれないように後をむいてやりませ。おゆをいっぱいかけようと思って、話をしないで、いっしょうけんめいゆびをうごかしませ。でも、さいごには、みんながあたかも顔もびしょびしょになってしまいます。大会をしたのにかつ人はいなくて、みんながまけたみたいになるからへんだと思います。でも、おもしろいから、わたしの家では人気のゲームです。

つぎにたのしいのは、夕ごはんの時間です。夕ごはんを食べるときは、学校のことやほいく園のこと、しごとのことをみんなで話します。わたしやおとうとが話すと、おとうさんとおかあさんは、

「それで、それで。」

と言って、いっぱい聞いてきます。だから、わたしはいっぱい話をします。

この間大わらいしたのは、おとうさんのドジな話です。おとうさんがしごとの人をまっけてなかなか来ないと思ったら、一日まちがえていたそうです。と書いてもたのしそうじゃないけど、おとうさんが話すと、どうしてだかもう上がります。おわらいげい人みたいだなと思うときがあります。

学校でみんなとあそぶのもたのしいけど、家でもたのしいことがまだまだたくさんあります。だからわたしは、にこにこ家ぞくが大好きです。

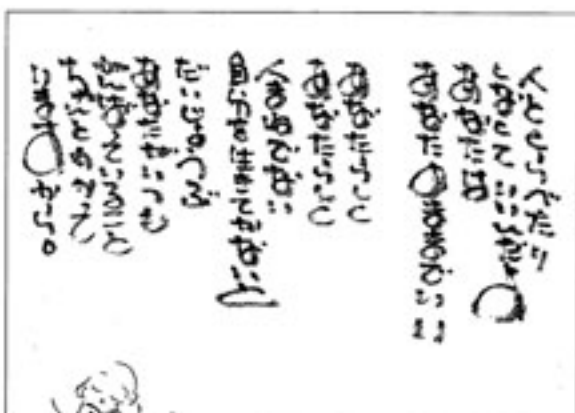
子どもは自然の
野山で！
四季の移り変
わりの中で！
家族が一緒の
食事と会話の中で！



子どもはこんな中で
育つてきたはずなのだ...

子どもにかけたい言葉

福島県大内宿 松美屋さんの
まゆみさんの言葉です



人とくらべたり
しなくて、いいんだよ
あなたは
あなたのままでいい
あなたらしく
あなたらしく
人まねでない
自分を生きてもかかないと
だいじょうぶ
あなたがいつも
がんばっていること
ちゃんとわかっていますから。

